



昭和28年より実施しております「手足の不自由な子どもを育てる運動」が令和4年度で70回目となりました。

この運動の中心であります、絵はがき等の頒布による寄付金募集活動は、肢体不自由児の療育思想普及に大きな成果を収めてきました。この運動開始当初に著名な画家から提供されたと思われる絵を使った絵はがきを作製し頒布してきました。

昭和40年がピークで約800万組の頒布がありました。昭和の巨匠たちによってこの運動は支えられたのです。

70回を記念し、当協会に保存されていた原画で当時の絵はがきの復刻版を作製しました。

猪熊弦一郎、東郷青児、棟方志功の3作品です。

第1回

「手足の不自由な子どもを育てる運動」ポスター
宮永岳彦作

復刻：友情の絵はがき（3枚1組）

猪熊弦一郎（明治35年～平成5年）

第2回（昭和29年度）手足の不自由な子どもを育てる運動
友情の年賀はがきに使用

題名：不明（油彩）

香川県高松市に生まれる。東京美術学校中退。帝展などに出品した後、新制作派協会創立会員。渡仏、藤田嗣治とアトリエを共にしアンリ・マチスの指導を受ける。帰国後陸軍省派遣画家としてフィリピン戦線に赴く。戦後20年間ニューヨークにて制作、国際的に活躍した。



猪熊弦一郎「未知」1954年
東京国立近代美術館蔵、東京国立近代美術館平成29年度展「戦後20年間の日本美術」

東郷青児（明治30年～昭和53年）

第5回（昭和32年度）手足の不自由な子どもを育てる運動
友情の年賀はがきに使用

題名：不明（油彩）

鹿児島県鹿児島市に生まれる。青山学院中等部卒業の翌年、日比谷美術館において初個展を開催し「我が国最初のキュービスト」と注目を浴びる。有島生馬の知遇を得て二科展に出品。滞欧期を挟んで作風は変化し、長年二科会会長として活躍した。芸術院会員、文化功労者。



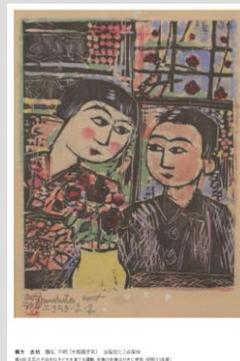
東郷青児「未知」1957年
東京国立近代美術館蔵、東京国立近代美術館平成29年度展「戦後20年間の日本美術」

棟方志功（明治36年～昭和50年）

第6回（昭和33年度）手足の不自由な子どもを育てる運動
友情の年賀はがきに使用

題名：不明（木版画手彩）※当協会に2点保存

青森県青森市に生まれる。川上澄生の作品に感動して独学で版画制作を始める。柳宗悦、河井寛次郎、浜田庄司らに見いだされ国内外で作品を発表。サンパウロ・ベネチア両ビエンナーレでグランプリ、国際的な名声を得る。日展常任理事、文化功労者、文化勲章受章。



棟方志功「未知」1958年
東京国立近代美術館蔵、東京国立近代美術館平成29年度展「戦後20年間の日本美術」

3枚1組 300円～の寄付をお願いします。